

2026 年度
教育・校務ワーキンググループ活動計画（案）

2026 年 4 月
教育・校務ワーキンググループ主査

2026 年度 教育・校務 WG 活動計画（案）

1. 現状認識

GIGA スクール構想の進展を背景に、教育現場における ICT 環境は一定の整備段階に到達し、近年はその活用を前提とした校務の DX 化が本格的な検討・実装フェーズに移行している。校務 DX は、教員の働き方改革や学校運営の高度化に資する取組として、教育分野にとどまらず、準公共分野全体のデジタル化の文脈の中でも重要なテーマとして位置付けられている。

このような中、校務 DX に関しては、学校教育を所管する文部科学省による次世代の校務デジタル化に向けた検討・実証、準公共分野のデジタル化を推進するデジタル庁、デジタル行財政改革会議事務局（内閣官房）を中心とした政府横断的な改革の取組など、複数の省庁・組織がそれぞれの立場から課題解決に向けた検討や実証を進めている。省庁間では一定の情報共有が図られるとともに、関連団体や民間事業者への情報提供や意見交換も行われている。

APPLIC（教育・校務 WG）は、校務 DX をシステム面から推進する業界横断の団体として、省庁や関係団体から一定の認知を得ており、データ連携や相互運用性の確保といった観点で期待される役割は大きい。

一方で、校務 DX に関する取組は、過去からの経緯や関係組織との調整の難しさ等を背景に、実証事業等において『標準化』を成果として掲げながらも、その検討結果は必ずしも統一されていない状況にある。通信方式やデータセット等について、全体最適の観点で整理されているとは言い難く、結果として校務支援システムメーカーに対する個別対応の負担が増大する懸念が高まりつつある。

今後、国における校務 DX 関連施策がさらに具体化・本格化していくことが想定される中で、業界として共通の認識に基づき、実装を見据えた実効性のある標準化の方向性を整理し、国や関係団体に対して建設的に情報提供・意見発信を行っていくことが、教育・校務 WG に求められている。

2. 活動の基本方針

(1) 教育 DX 全般に関わる活動

国が進める教育関連の DX 関係の動きが活発化している中、校務支援システムの位置付けや本 WG で定める標準仕様の在り方を含め検討を行う。

(2) 標準化活動の継続

多様な校務支援システムが自治体に導入されている状況を鑑み、これまで進めてきたデータ連携等の標準化活動は着実に継続していく。

(1) 教育データ標準への対応（データ要件）

(2) データ連携（方式、ファイル形式、文字）の標準仕様検討（連携要件）

(3) 教育・校務クラウド基盤要件の検討（校務支援システムのクラウド化におけるクラウド基盤要件書）

(4) 国の動向ウォッチ・事業への協力

(3) 本 WG 活動ロードマップのデザイン

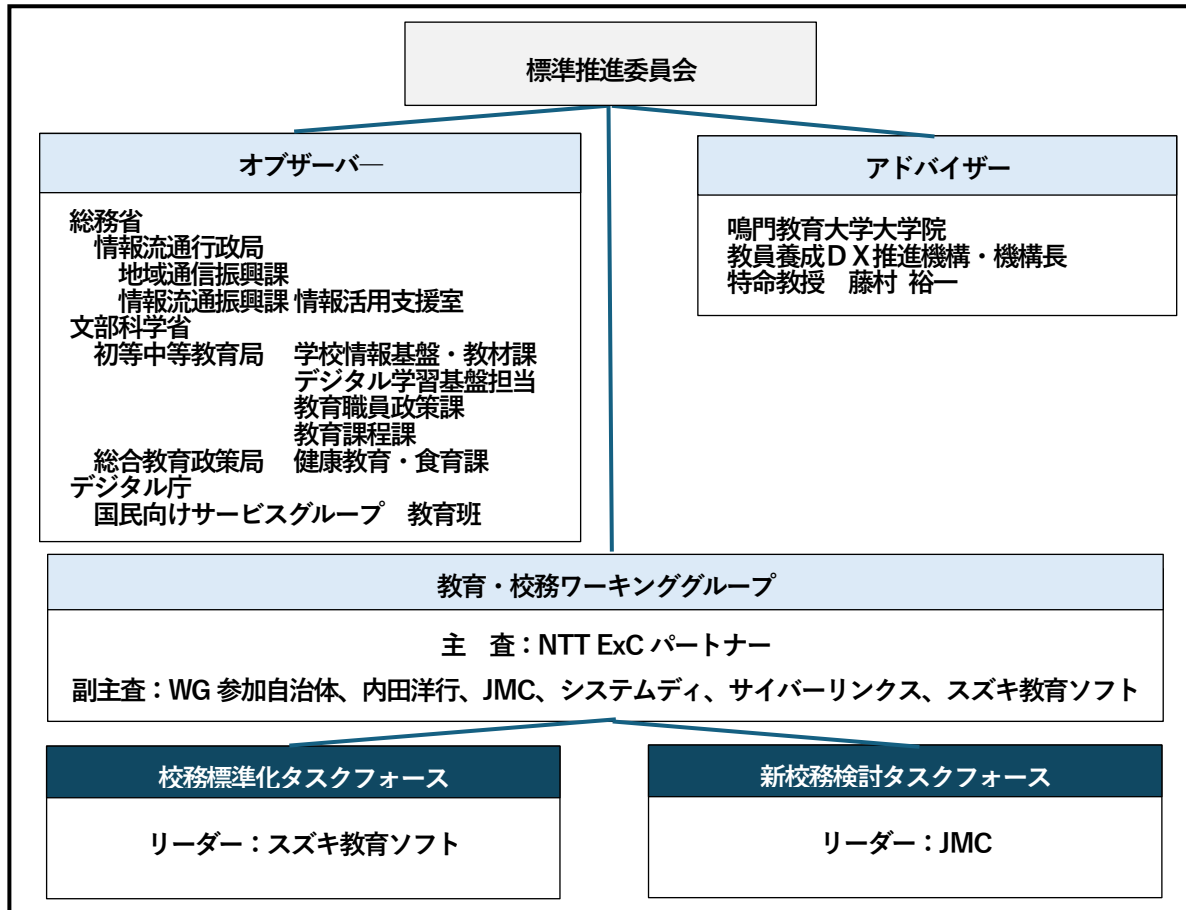
本 WG の今後の中期的な活動の軸を定め、活動ロードマップを策定する。

3. 検討体制及び検討テーマ

(1) 検討体制

昨年度同様、2タスクフォース体制とする。

- (1) 校務標準化タスクフォース
- (2) 新校務検討タスクフォース



(2) 検討テーマ

(1) 校務標準化タスクフォース

- ① 標準化関連動向へのキャッチアップ
 - ・ 省庁等と連携を取りつつ情報収集および成果普及に向けた発信を積極的に行う。
- ② 教育情報アプリケーションユニット標準仕様
 - ・ 標準仕様の改訂検討（要否含む）
 - ・ 相互接続イベントの対応
- ③ 他システムとのデータ連携に係る検討
 - ・ 就学事務システム（学齢簿編成）におけるデータ要件・連携要件標準仕様書（基本データリスト機能別連携仕様）とのデータ連携標準検討（行政事務標準文字から JIS_X_0213 への縮退等への対応を含む）
 - ・ データ連携方式の標準仕様検討
- ④ その他

(2) 新校務検討タスクフォース

- ① 「校務支援システムのクラウド化におけるクラウド基盤要件書 V1.0」普及及び適合宣言書の公開
- ② 「校務支援システムのクラウド化におけるクラウド基盤要件書 V1.0」のバージョンアップ
- ③ 今後3～5年を見据えた本WG活動ロードマップ検討
- ④ 成果物の普及に資するため、APPLIC主催のセミナーを検討

4. スケジュール、到達目標

(1) スケジュール

	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	備考
(1)教育・校務WG 会合 先進事例等調査	▲	▲	▲	▲	
(2)校務標準化TF	▲	▲	▲	▲	
① 標準化関連動向キャッチアップ	→ 状況確認、対処検討				
② 教育APユニット標準仕様	→ 改定検討(要否判断含む)				
③ 他システムとのデータ連携検討	→ 就学事務システムとの連携検討 → 他システムとの標準的データ連携検討				
相互接続イベントの対応	→ 仕様等の問合せ対応				ユニット毎の実施希望社数により実施決定
(3)新校務検討TF	▲	▲	▲	▲	
①② クラウド基盤要件書	→ 要件書の普及 → バージョンアップ検討				④フォーラムについてはTF内で詳細検討
③ 活動ロードマップ検討	→ ロードマップテーマ抽出		→ 優先順位、主体等検討		

- 従前どおりWG年4回、TF年4回(1回目はWG後、2～4回はWG同日)
- WG、TFメンバーは2025年度から継続とし、それぞれ追加の募集を実施する。

(2) 到達目標

- ・ 校務支援システムデータ連携標準(例:学齢簿、保護者連絡、データ引き渡し等)
- ・ 校務支援システムのクラウド化におけるクラウド基盤要件書V1.X(アップデート版)
- ・ 本WG活動ロードマップVer0.X

以上